

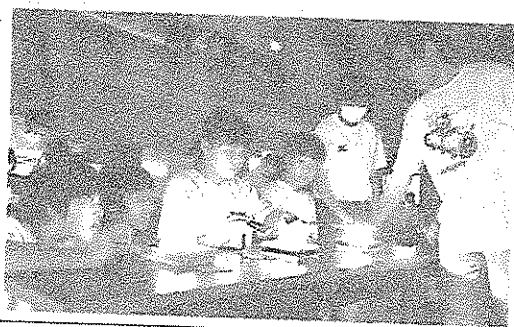


未来の研究者 本年度も育て 一関中

市主催授業始まる

一関

一関市主催の中学生ILC特別授業は4日、同市真柴の一関中(福井信夫校長、生徒246人)で行われ、本年度の授業がスタートした。本県の北上山地(北上高地)への建設実現を目指す国際リニアコライターの



倉田正和研究員(右)に教わりながら、アルコールとドライアイスを使った実験を行う一関中の生徒

(ILC)に関わる茨城県つくば市の高エネルギー加速器研究機構(KEK)の研究者が講師を務め、生徒はILC計画や素粒子について理解を深めた。

同校の2年生約90人が参加。KEKの倉田正和研究員(39)が素粒子の種類や宇宙の成り立ち、ILCで使われる直線型加速器の概要などについて説明。ドライアイスとアルコールを使って粒子が通った跡を見る簡単な実験も交え、ILCで行われる実験について解説した。

倉田さんは「ILCの候補地は世界中で北上山地以外にない。将来の研究者がここの中から出てきてほしい」と呼び掛けた。

北田祐亮さんは「世界中の多くの国が協力して造られるILCが日本にできるかもしれないことに驚いた。理科が好きなので、将来実験に携わることができたらいい」と夢を描いた。

同日は花泉中でも授業が行われた。特別授業は2016年度から始まり、17年度も市内の全中学校を対象に開催される予定だ。